

市民文芸

歌壇

岩崎 聰之介 選

「雨だるか」パチパチメットを打つ音が虫だと分り春を感じる 村上 英俊
 太き指かち悪くも花咲かせ来たれもの 高子うこん
 ちのみの父の残し古き茶壺ひかり静かに 遠藤 行夫
 面影湛ふ 遠藤 行夫
 採りたてと貰いし山うど初もの天ぶらうま 遠藤 行夫
 き皮捨てがたし 遠藤 行夫
 分校は今年八人の子らと聞く御衣香の下笑顔 鈴木 茂子
 が見えて 鈴木 茂子
 笛の音の遠く聞こえる高架橋春の祭りの間 阿部はぎの
 近き夕べ 阿部はぎの
 物言わねど愛犬おまえ居てくれて切り抜けた よねあの頃私 大庭 良子
 車椅子つらねて桜の下を行く施設の老いらみ 平間 久子
 な笑顔なる 平間 久子
 土ほぐし光りまじえて耕せばやがて授かりん 齋藤 典子
 天地の恵み 齋藤 典子
 芍薬の株間のなかにタンポポが日差しを浴びて 佐藤キワ子
 花咲かせ居り 佐藤キワ子

【評】一首目、メットはヘルメットのこと。オートバイ乗りが春を覚えた。シーン。若若しい口語短歌だ。
 二首目、長いこと支えてくれた十指、多くの結実を思わせる。秘められる自負。
 三首目、昔を、そして父上を思い起こさせる陶の静謐な照り。

俳壇

遠藤 秋尾 選

はれやかに町ふくらませ山車のくる 岩松 隆志
 櫻若葉立ちくらむかに柵の前 齋藤 典子
 風よけて絵を描く日向草匂ふ 石田みどり
 落原に雨降りかかる山の径 岩澤 伍峯
 たんぼがじゅうたんのよう休耕田 佐藤 啓子

「高齢社会」

風間市長の風のことば

「喜寿(きじゅ)」「上寿(じょうじゅ)」とも言うそうです。これもご長命をお祝いする言い方です。
 全国的には9月15日が敬老の日ですが、本市では5月中旬から6月中旬までの間に、各公民館と共催して「敬老会」を各地域ごとに開催しています。77歳以上の皆さまをお招きし、その地域ならではのアトラクションが催されます。その折には私も各地域にお伺いし、米寿や喜

「喜寿(きじゅ)」「上寿(じょうじゅ)」とも言うそうです。これもご長命をお祝いする言い方です。
 全国的には9月15日が敬老の日ですが、本市では5月中旬から6月中旬までの間に、各公民館と共催して「敬老会」を各地域ごとに開催しています。77歳以上の皆さまをお招きし、その地域ならではのアトラクションが催されます。その折には私も各地域にお伺いし、米寿や喜

寿を迎えられた方々に賀状をお渡しして、長寿をお祝いするとともに、これからも元気で健康にお過ごしください。
 県の3月末現在の高齢者人口調査によると、65歳以上の高齢化率は、22.2%と過去最高で、51万6、790人となっています。ちなみに白石市の高齢化率は27.5%で、県内35市町村中、高い方から14番目です。
 今年の敬老会にご招待した77歳以上の方は、市内全体で5、210人となりました。これは市民の約7人に1人の割合となります。10年前の平成12年は約3、200人。20年前の平成2年は約2、100人が77歳以上の方でした。
 平成22年5月現在、本市には100歳以上の方が104歳の方を筆頭に14名いらっしゃいます。そして、本年度中に100歳を迎えられる方は6名いらっしゃいます。

このように長寿の方々が年々増えてきていることは、「人によさしいまちづくり」を市政運営の大きな柱として、さまざま高齢施策を推進している本市としても、大変うれしく喜ばしい限りです。
 これからも市民の皆さまが健康で生きがいを持ち、長寿を尊ぶことのできる社会を目指します。そして、日々の生活の中でより明るく元気に充実した日々を過ごし、いつまでも住み続けられる故郷づくりに努力して参ります。



▲5月30日、白川小学校で開催された敬老会

柳壇

四電 英夫 選

鶏鳴の絶えて久しき春の朝 寺崎 悦子
 花の宿語り尽きざる寡婦五人 阿部はぎの
 城山の校歌が消えて桜散る 齋藤 典子
 耐えること覚えてからの妥協点 草野 清
 カーナビで見える限りでは近いとこ 大庭 良子
 温暖化自然災害地球規模 水戸 光穂
 また値上げもう出来ませぬ節約は 遠藤 行夫
 咲く花の色にもころあるのかな 高子うこん
 うぐいすと春を先取り新芽食う 高橋由美子
 デイサービスひ孫の笑顔で送られる 佐久間とみ子

【評】一句目、最近、時を告げる鶏の音がほとんど聞かれなくなった。子どもたちの遊ぶ声も少なくなった。にぎやかだったあのころが懐かしい。残しておきたい日本の風景…。
 二句目、夜更けまで語り明かしたのとは、どんな話だったのだろう。「女性三人何とやら」と言うが、五人だった何と何と何とやら。
 三句目、この春、城山の校歌が消えた。散りゆく桜に、惜別の思いがこもる。しかし、歴史と伝統は消えない。理想の花をここに咲かせん。

国際コーナー

International Corner



「ガススタンドの神話」

先日、友達車でガススタンドに行ったら、面白いネタを発見しました。オーストラリアのガススタンドでは、電波による爆発の恐れがあるため、携帯電話の使用は一切禁止されています(車のエンジンも必ず切ります)。しかし、友達は車にガスを入れながら、何も怖がらず携帯でしゃべり続けていました。僕は少し心配になって友達に「危険だよ」と注意しましたが、驚くことに彼はそんな話は今まで聞いたことがなかったようです。友達からは「静電気が心配なら、ガスを入れる前にこれをタッチするんだよ」と言われました。友達の隣に丸いタッチパッドが置いてありました(なるほど、日本ではこんな解決方法を利用しているんだと思いました)。
 少し調べてみたら、携帯電話が原因で起こったガススタンドでの爆発事故は今まで1件もないようです。アメリカの人気TV番組「Myth Busters」(映画などのシーンが実際に起こるかどうかを検証する科学番組)でも、携帯電話による爆発の可能性があるかどうかを検証していましたが、そんなことはない判断していました。そ

れにもかかわらずまだオーストラリアなどのガススタンドでは、携帯使用禁止の印が残っています。
 なぜ今でもこんな印があるかというと、オーストラリアでは最近、企業や政府などが一般人から訴えられるケースが増え、いくら可能性が低くても自分のビジネスなどを守るため、お客さんを傷つけないように注意する看板を立てるしかないということです。

「Myth Busters」の結果によると、携帯電話より洋服から発生する静電気の方が危ないようです。それに、不思議なことに男性より女性の方が事故に遭うリスクが高いとのことでした。



▲このラベルがスタンドに張ってあります

まちの話題

～あの日、あの時～

全力でぶつかることで、心と体を鍛える！ 第14回わんぱく相撲仙南場所

6月5日、宮小学校(蔵王町)で第14回わんぱく相撲仙南場所が開催されました。(社)白石青年会議所(小林聡一理事長)が1997年から主催するこの大会には、日本の国技である相撲を通じて、努力や礼儀、思いやりなどを子どもたちに学んでほしいという思いが込められています。今年の大会には、本市から7人のわんぱく力士が参加し、優勝目指して全力でぶつかっていきました。
 1年生の部で、小笠原陽月くん(白石第二小)が決勝に進出。惜しくも敗れましたが、準優勝(大関)に輝きました。また4年生の部では、大槻香太くん(白石第二小)が3位決定戦に進出。準決勝では一度、大槻くんに軍配が上がるも「物言い」が付き、取り直して敗れるという不運がありました。それでも、気持ちを切り替えて

挑んだ3位決定戦で見事勝利し、3位(関脇)に輝く活躍を見せました。



▲自分より大きい相手にも果敢に挑んだ小笠原くん(写真右)